

《担当者名》○本家寿洋（リハ）honke@hoku-iryo-u.ac.jp 吉田晋（リハ） 田村至（リハ） 武田涼子（リハ）澤田篤史（リハ）佐藤一成（リハ） 鎌田樹寛（リハ） 坂上哲可（リハ） 黒崎芳子（リハ） 前田秀彦（リハ） 大須田祐亮（リハ） 飯泉智子（リハ） 吉田彩華（リハ） 竹生礼子（看） 宮地普子（看） 内ヶ島伸也（看） 石角鈴華（看） 巻康弘（福） 橋本菊次郎（福） 近藤尚也（福） 鈴木和（福）

## 【概要】

医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実践についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学部学科をこえたグループワーク演習を通じ、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。

## 【学修目標】

医療や福祉の現場で他の専門職種と連携協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。

1. 多職種連携において患者、利用者を中心とした視点が持てる。
2. 多職種連携における各専門職の教育背景が異なることを配慮して他学科の学生と意見交換ができる。
3. 演習を通してグループ内で信頼関係を築ける。
4. 多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。
5. 演習での議論を円滑に進めるために協力することができる。
6. 自分自身のふるまいを内省し、考えや価値観を再構築できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ） 2	オリエンテーション	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。	全担当教員 オンライン
3	多職種連携の必要性	多職種連携が求められる背景とその重要性について理解する。	オンデマンド
4	多職種連携に関わる各職種の役割	病院や地域において多職種連携に関わる各職種の役割について学ぶ	オンデマンド
5	多職種連携に必要な技術1	カンファレンス等、多職種で行う情報交換、意思決定の方法とディスカッションを円滑に進めていくためのファシリテーターの役割について学ぶ	オンデマンド
6	多職種連携に必要な技術2	多職種が連携することで生じるコンフリクトに対するマネジメント方法について学ぶ。	オンデマンド
7	多職種連携に必要な技術3	保健、医療、福祉の共通言語であるICFにしたがって情報を整理する方法について学ぶ。	オンデマンド
8 ） 9	多職種連携演習	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演出を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ	全担当教員 対面
10 ） 11	多職種連携演習	各職種の視点で課題を整理し、多職種に伝える方法について、現職の専門職を交えた演習を通して学ぶ。	全担当教員 特別講師：星野由利子、 上田学、下倉賢士 対面
12 ） 13	多職種連携演習	各職種から抽出された課題を共有し、チームで目標を統一するプロセスについて、現職の専門職を交えた演習を通して学ぶ。	全担当教員 特別講師：星野由利子、 上田学、下倉賢士 対面
14 ） 15	多職種連携演習	チームでまとめた課題を解決し、目標を達成するために、それぞれの職種が担う役割について整理し、介入方法を立案するプロセスについて現職の専門職を交え	全担当教員 特別講師：星野由利子、 上田学、下倉賢士

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		演習を通して学ぶ。	対面

**【授業実施形態】**

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

レポート提出、演習後のリフレクションシート100%

**【教科書】**

篠田道子 著 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」 医学書院 2011年

**【参考書】**

埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ-利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 2009年

北島政樹 著 「医療福祉をつなぐ関連職種連携-講義と実習にもとづく学習のすべて」 南江堂 2013年

**【備考】**

オンデマンド授業は5月末までに5回分を視聴し、レポートを提出すること。

オンラインおよび対面でのグループワークは隔週 2コマ授業を原則とし、開講日は別途指示する。

**【学修の準備】**

オンデマンド授業後の課題は教科書や参考図書も参照し課題を提出すること（2時間程度）。

グループワークは事前に配布される資料を読み、課題を行った上で参加すること（1時間程度）。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP4、2 近代医療は”チーム医療”がとても重要です。各職種の専門性を活かした”チーム医療力”が病院、施設、地域等で実践する際の”臨床力”として特に重要になります。自身の職種と他の職種の専門性を理解し、尊重し合い、連携・協働することが、患者・利用者及び家族を支援する力になります。多職種連携論では、そのようなチーム医療力を発揮するための知識・技術・態度を身につけます。

**【実務経験】**

宮地普子（看護師）、竹生礼子（訪問看護師、保健師、介護支援専門員）、内ヶ島伸也（看護師）、石角鈴華（看護師）、巻康弘（社会福祉士、認定社会福祉士(医療分野)、認定医療社会福祉士、介護支援専門員）、橋本菊次郎（社会福祉士、精神保健福祉士）、近藤尚也（社会福祉士）、鈴木 和（精神保健福祉士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

看護師、社会福祉士、精神保健福祉士等の実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。